

「ロハスプリンティング」を導入

環境に配慮した新たな印刷システム「ロハスプリンティング」を導入している株式会社サンエー印刷。今回は同社が開発した新たな環境配慮型資材である「ライスインキ」を中心にお話をうかがいました。



株式会社 サンエー印刷

(東池袋5-44-15 東信ビル)

<http://www.suna.co.jp/>

取締役/吉川昭二さん

「ライスインキコンソーシアム（ライスインキを普及させる推進団体）では“世界初・日本発”をスローガンにしました。“豊島区発”という意識も持っています」と吉川さん。

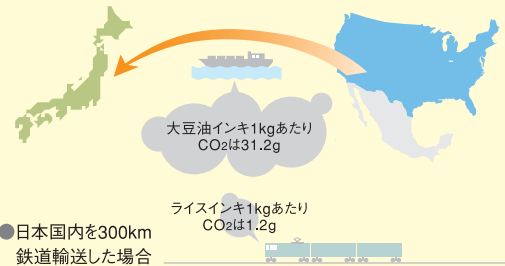
紙の大量消費や印刷工程で出る廃液の処理問題など、印刷会社だからこそ考えなければならない企業責任を感じ、環境を意識するようになりました。一般的には環境配慮型印刷などの名前がありますが、われわれは企画から加工にいたるまで、天然資源を有効活用し、廃棄物や化学物質の発生を抑制した環境対応型の印刷技術を総称して「ロハスプリンティング」と呼んでいます。各工程において「森林認証紙（FSC）」、「水なし印刷」、「ライスインキ」（右記参照）など、環境負荷を少なくするための材料や方法を選んでいきます。

とくにインキについては、現在、大豆油インキがポピュラーですが、新たな環境配慮型資材としてライスインキをインキメーカー 2 社の協力のもとに開発しました。ライスインキは純国産米を精米したあとに出る米ぬかからしぼった米ぬか油を使用しているため、原料を海外から輸入している大豆油インキよりも“輸送マイルージ（輸送にかかるCO₂排出量）”を低減した“地産地消”ともいえる画期的なインキです。米ぬか油というインキ材料には、未利用資源の活用と生物由来の再生可能な資源であるバイオマス効果が認められ、本年3月にはバイオマスマーク（右記参照）商品として認定されました。まだ始まったばかりですので、あまり知られていないと思いますが、今後、多くの方々に使っていただけるよう、当社でデザインしたロゴマークとともに広めていきたいと思っています。

これからも豊島区の企業として環境に配慮した視点を持ち続け、循環型の社会や環境負荷の低減に努めるロハスプリンティングを目指していきたいと思っています。

●輸送マイルージ比較

- 北米から大豆（または大豆油）を船便だけで運んだ場合



(ウッドマイルズ研究会の資料に基づく当社試算)

FSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会) 認証紙 (FSCマーク)

地球環境保護の視点から、適正管理された森林の木材を材料とした印刷用紙。



水なし印刷 (バタフライマーク)

従来の方式に比べ、印刷廃液、刷り出し用紙の削減など、環境負荷低減と品質向上を実現する。



ライスインキマーク

米ぬか油による「輸送マイルージ」と「地産地消」に着目した新型インキ。



バイオマスマーク

生物由来の資源（バイオマス）を利活用し、品質及び関連法規、基準、規格等に合致している環境商品の目印。

エドらむ③

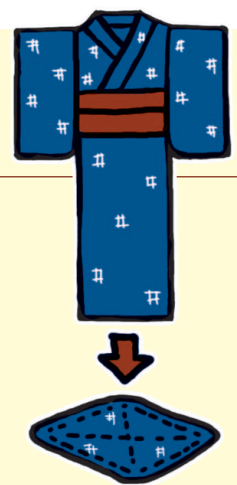
今回は江戸時代の“エコなファッション事情”を紹介します。「大事に着よう、大切に使おう」という気持ちをいつまでも持ち続けたいものです。

最近、街を歩くとリサイクルショップが目につきます。日用品から大小鮮やかな衣服まで揃い、買う側に選ぶ楽しさがあります。商品の中には破れたジーンズなどもありますが、それもまたファッションであり、購入後わざわざ破いてから着用する人もいます。

江戸時代には、そんなに沢山の着物を持っている人はいませんでしたし、庶民は、まず新しい着物を着ることはありませんでした。新しい着物を着ることができるのは一部の裕福な人たちだけで、多くの人は古着屋を利用していただけです。古着は一枚一枚に季節感があり、風情もありました。そして古着屋に

は打掛から^{ももひき}股引まで売られていたといえます。新しい着物を作る人でも、着古したら古着屋に売るのが常でしたので、古着屋はいつも繁盛していたようです。そして買った古着を着古したらオムツへ、最後は雑巾まで仕立て直して、生地が寿命が尽きるまで大切に使うそうです。夕食後、暗い行灯の下で針仕事をするお母さん、日当たりのよい縁側で針を進めるお婆さんの姿を見ながら「着物を大事に着よう、大切に使おう」という気持ちを育てていたのではないのでしょうか。

たとえ時代が変わっても一針一針に感謝の気持ちを持ちたいと思います。



文/高橋 隆さん(西巣鴨在住)

江戸東京博物館ボランティアガイド
東京水辺ラインリバーガイド
毎年小学校のヤゴ救出作戦でリーダーとして活躍